

修士論文(要旨)

2012年1月

中国における社会サービス NGO 発展の可能性

— 広東地域を中心に —

指導 牧田東一 教授

国際学研究科

国際協力専攻

209J1954

穆鵠

目次

序章 問題意識	1
第一章 NGOの定義と中国のNGOの概要	2
第1節 NGOの定義.....	2
第2節 中国の民間組織と草の根NGO	5
第二章 中国政府のNGO政策と中国サービスNGOの現状.....	7
第1節 中国における社会サービス制度.....	7
第2節 中国政府の社会サービスNGOに対する政策の変遷.....	13
第3節 中国サービスNGOの現状と問題.....	14
第三章 深圳計画	17
第1節 特別経済区と深圳計画の経済背景	17
第2節 深圳計画の概要	19
第3節 深圳計画実施の政治と社会背景	20
第4節 深圳計画実施の外部条件	21
第四章 広州NGO発展の可能性.....	26
第1節 広州サービスNGOの現状	26
第2節 広州NGO発展の経済背景.....	29
第3節 広州NGO発展の社会背景.....	29
第4節 広州サービスNGO発展の可能性.....	30
終章 深圳モデルと広州の可能性から見る中国全体への展望:可能性と条件.....	31
第1節 中国の大都市のサービスNGO—上海R機構.....	32
第2節 NGOと政府協力し、自身を發展させるための戦略.....	32
参考文献リスト	i

要旨

2008年5月12日、中国の四川省には、史上最大の大地震が発生した。当時筆者は北京にいる大学生であった。地震が発生した直後、最速にニュースを流したのはインターネットユーザーである。社会に関心を持つ若者たちが地震のニュースを報じ、写真やビデオをインターネットにアップロードした。四川大地震は、筆者が生まれて初めて身をもって感じた地震であった。インターネットで写真やビデオを見ながら、震災の悲惨と人々の助け合いに感心した。その中で、1976年の唐山大地震の時孤児になった人を知った。その人は、現在は会社の社長になっていたが、会社の社員を動員し、資金を寄付し、被災地に向かったのである。彼は、「唐山大地震の時、私は国家に助けられた。今私は成功し、国家に恩返しをしなければならないのだ。」と言っていた。現在の中国では、彼のような成功した企業家が母国のために、何かをしようとしている。また、民間組織やボランティアたちの活躍にも目を見張った。ボランティアたちは単純に人を助けたいという気持ちだけでなく、専門知識を持った医者や心理学者などが被災地の力になった。これをきっかけとして、筆者は中国の民間組織や非政府組織について関心を持つようになった。

中国の民間組織は法的地位や組織性質と体制によって分類できるが、こうした分類の中、どのような組織はNGOの性質を持つか、中国のNGOを理解するうえで重要なのは、用語や定義、法人格の問題よりも、これらの組織が実際中国社会においてどのような位置づけにあるのかについて考えることである。本論では、こうした分類の中で、「官弁」(政府が設立に関わっている)NGOを除いて、NGOの特徴に最も当てはまる草の根NGOに注目したい。

1978年の改革開放政策以来、中国の経済体制は計画経済から市場経済へ変化してきた。その中で、社会サービス制度も変革が続いている。20年近い変革を経て、市場経済と社会発展の要求に適応する新型の社会福祉制度が確立された。第二章では、今日の中国の新しい社会サービス制度を紹介し、こうした制度に応じて、中国政府のNGOに対する政策の変遷と社会サービスNGOの現状と問題を検討してみたい。

改革開放以来、特別経済行政区として、深圳の経済発展は先進国に負けないといっても良いが、社会的にはいまだに多くの問題を抱えている。こうした状況の中で、2007年に始まったソーシャルワーカー育成を目指す深圳計画の実施は中国のNGO研究者やNGOの人々にとって重大な意義を持っている。

Institute of Social Service Development (社会サービス発展研究センター)は1998年にソーシャルワークに携わっている専門家たちによって香港で設立されたNGOである。中国本土と香港の交流を通じて、本土の社会サービスの発展を促進することを目的としている¹。社会サービス発展研究センターは各省や市

¹ 中国語原文：社會服務發展研究中心，成立於一九九八年，為一間非牟利的服務機構。中心的成立，主要是由一群從事社會福利服務工作、負責行政的社會工作者倡導和發起。過去一百多年來，中國的傳統文化受到西方文化的衝擊，在不同體制下，香港與內地發展社會服務的模式與內容存在著異同。這實有 需要透過不斷的交流、瞭解，相互學習和借鑒，促進彼此的共融與進步。一九九七年，香港回歸祖國，在「一國兩制」、「港人治港」的原則下，香港應如何落實兩制而又能同時體現一國，特別是在邁進新世紀時，因應兩地的文化互動、社會情勢需要的轉變，加強服務經驗交流，促進社會服務配合時需及作出承擔和貢獻委實重要，且對兩地社會福利服務的發展，有莫大的裨益。

中心宗旨 促進香港與內地社會福利服務的交流 and 發展。

<http://www.socialservice.org.hk/program/channel.php?channelID=49&channelName=%BE%F7%BAc%C2%B2%A4%B6&topicID=90&topicName=%BE%F7%BAc%A4%B6%B2%D0&&lang=hk>

の政府部門と協力し、深圳計画、東莞計画、広州計画等を行った。この中、第三章では深圳計画について分析したい。

広州は経済特区ではないが、近年社会サービスの発展でも大きな成果を遂げている。今後の課題として、第四章では、広州の社会サービス NGO の現状や問題を調査し、深圳のモデルを広州に通用できるかを検討してみたい。

深圳と広州のように、現在中国の大都市は経済発展に伴い、社会サービス問題が顕在化している中で、さまざまな社会サービス団体が活発化している。本章では、中国その他の大都市の社会サービス NGO を紹介し、最後に NGO が政府と協力し、自身を発展させるための条件や戦略を検討してみたい。

参考文献リスト

日本語文献(アルファベット順)

- 馬橋 憲男(2007)『グローバル問題と NGO・市民社会』明石書店
功刀達朗・毛利勝彦編著(2006)『国際 NGO が世界を変える-地球市民の黎明』東信堂
平田 哲(2005)『NPO・NGO とは何か』中央経済社
松井範惇(2007)「中国の貧困削減における NGO の役割と政府連携」『国際開発研究』第 16 巻第 1 号
NGO 活動推進センター(1998)『NGO データブック』NGO 活動推進センター
王名・岡室美恵子(2002)『中国の NPO——いま、社会改革の扉が開く』第一書林
李妍焱(2008)『台頭する中国の草の根 NGO』恒星社厚生閣
関良基、向虎、吉川成美(2009)『中国の森林再生』御茶の水書房
重田康博(2005)『NGO の発展の軌跡』明石書店
重富真一(2001)『アジアの国家と NGO—15 カ国の比較研究』明石書店
嶋田芳男(2005)『ソーシャルワーカーの三つの分野』大学図書出版
沈潔(2003)『社会福祉改革と NPO の勃興—中国・日本からの発信』日本僑報社

中国語文献(アルファベット順)

- 陈云松(2000)《转型期的中国行政》中国改革论坛
邓国胜(2005)《民办非企业单位与中国社会事业的发展》学会
王名(2001)《中国民间组织参与公共服务购买的模式分析》中国共产党浙江省委党校学报
王名, 刘国翰(2001)《中国社团改革: 从政府选择到社会选择》社会科学文献出版社
王名, 刘培峰(2004)《民间组织通论》时事出版社
张强, 余晓敏(2009)《NGO 参与汶川地震灾后重建研究》北京大学出版社
张钟汝, 范明林(2010)《政府与非政府组织合作机制建设—对两个非政府组织的个案研究》上海大学出版社

英語文献(アルファベット順)

- Elliott, Carolyn (2003) *Civil Society And Democracy*, Oxford University Press
Jean L, Cohen and Arato, Andrew (1997) *Civil Society and Political Theory*, Cambridge Hann,
Chris and Dunn, Elizabeth (1996) *Civil Society*, Routledge University Press
Howell, Jude and Pearce, Jenny (2001) *Civil Society and Development*, Rienner
Brook, Timothy and Frolic, B. Michael (1997) *Civil Society in China*, M.E. Sharpe
Nam Cho ,Young (2009) *Local People's Congress in China*, Cambridge University Press